

聖書日課 『からし種』 2024.5.19-5.26

| | |
|---|---|
| <p>5月19日 (日) コヘレト 1章</p> | <p>「コヘレトは言う。なんという空しさ／なんという空しさ、すべては空しい」(2節)。「コヘレト」は「集会の招集者」の意。彼は世界のすべてを探求して「すべては空しい」と人々に呼びかける。同時に「神を畏れ、その戒めを守れ。これこそ人間のすべて」(12:13)とも。神以外に永遠で、確かなものはない。新しい週の初めに、心向けるべき確かなものを求めて集おう。</p> |
| <p>20日 (月) コヘレト 2章</p> | <p>「人間にとって最も良いのは、飲み食いし／自分の労苦によって魂を満足させること。しかしそれも…神の手からいただくもの」(24節)。あらゆる「快樂」を求めたコヘレトは、最も幸福なことは、自らの労苦にふさわしい飲み食いを楽しむことだと言う。しかしそのような時にも「自分の労苦」を自賛するのではなく、「神の手による喜び」を覚える信仰をいただきたい。</p> |
| <p>21日 (火) コヘレト 3章</p> | <p>「神が人間を試されるのは、人間に、自分も動物にすぎないということを見極めさせるため」(18節)、「すべては塵から成った。すべては塵に返る」(20節)。一日の初めに深呼吸をして創造主なる神の語りかけを聴いて始めたい。「塵から成り、塵に返る」はかない者を、「価高く、貴いもの」(イザヤ 43:4)として愛し、今日、命の息を吹き込んでくださる方の言葉を。</p> |
| <p>22日 (水) コヘレト 4章</p> | <p>「ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。倒れれば、ひとりがその友を助け起こす」(9-10節)。「太陽の下に行われる虐げ」(1節)あふれる世界の中で、聖書は互いに支え合う友情に私たちを招く。主イエスは神の国の働きを始めるにあたり、自分一人だけでなく労苦を分かち友を求められた。私たちも「二人または三人の祈り」から始めよう。</p> |

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.5.19—5.26

| | |
|---|--|
| <p>23日 (木) コヘレト 5章</p> | <p>「焦って口を開き、心せいで／神の前に言葉を出そうとするな。神は天にいまし、あなたは地上にいる。言葉数を少なくせよ」(1節)。人前で「上手に祈らないと…」と、つい言葉数が多くなることもある。「焦らなくてよい。言葉数は少なくせよ」。神の前に一番大切な祈りはどういう祈りだろうか。少年サムエルが学んだ祈り(Ⅰサムエル 1:9)を学ぶ者とされたい。</p> |
| <p>24日 (金) コヘレト 6章</p> | <p>「人間、その一生の後はどうなるのかを教えてくれるものは、太陽の下にはいない」(12節)。旧約は、この世の「富、財宝、名誉」(2節)を神の祝福と重ねる。しかし、それでは理解できない「不幸」あふれる現実にはコヘレトは苦悩し、「すべては空しい」と語った。このコヘレトの疑問と苦悩に答える方として、主イエスは神の変わらぬ愛と復活の希望をあらわしてくださった。</p> |
| <p>25日 (土) コヘレト 7章</p> | <p>「順境には楽しみ、逆境にはこう考えよ／人が未来について無知であるようにと／神はこの両者を併せ造られた、と」(14節)。今、順境だからといって未来を自らの手の中に収めることはできない。今、逆境だからといって未来を悲観する必要はない。目の見えない人に「神の業がこの人の上に現れる！」(ヨハネ 9:3)と語り抜かれた主イエスが、私たちと共に歩まれる。</p> |
| <p>26日 (日) コヘレト 8章</p> | <p>「にもかかわらず、わたしには分かっている。神を畏れる人は、畏れるからこそ幸福になり、悪人は神を畏れないから、長生きできず／影のようなもので、決して幸福にはなれない」(12・13節)。次節でも「空しいことが起こる」と語りながらも、コヘレトは主を信頼している。彼は伝道者であり、地上での労苦を受け入れ、主の賜う恵みを喜ぶことを勧める。</p> |